

## 生徒か、それとも先生か

昨日の昼の放送で、生徒会執行部のK・Mさんの語りの中に「級長ががんばるのか、先生ががんばるのか」という言葉がありました。級長は生徒の代表です。そう考えると、彼女の語りのねらいは、「生徒か、それとも先生か……今は生徒が前に出てがんばろう」ということだと、私はとらえました。

中学校生活は三年間しかありません。この三年間は、同じことを三度繰り返し返す時間ではありません。言い換えると、一年と三年の間には、大きな違いがなければならぬということですね。担任時代の私は、何年生を受けもったかで、生徒たちへの接し方を変えていました。一年生と三年生では体格や体力が大きく違うように、心の成長もはっきりと違うからです。それが中学時代の特徴です。

一年生。一言で言うなら、「教師が前に出て教える学年」です。最近まで小学生だったのですから、無理もありません。中学生として覚えるべきことはたくさんあるはずですよ。

二年生。一言で言うなら、「教師が横に並んで支える学年」です。教えられたことが発揮できるかどうか……迷ったときや不安になったときには、教師が導く必要があります。

三年生。一言で言うなら、「教師が後ろに控えて見届ける学年」です。最上級生というプライドが生まれ、全てにおいて注目されます。一年生には難しいことでも、それをいとも簡単にやりとげてしまうのが三年生です。

したがって、今年度も大詰めを迎えようとしている今、教師が生徒よりがんばってもよいのは一年生だけ。二年生は生徒と教師が同じくらいがんばる学年。三年生に至っては、教師の頑張りを生徒のそれが上回り、教師は後ろで笑顔で見守る学年だと私は思っています。

これまでの私は、このように考えて担任をしてきました。もちろん三年間持ち上がることはほとんどなかったのですが、受け持った生徒の様子を見て、一年生に対するように優しく教えたり、上級生としての自覚の弱さに対してかなりの荒療治をしたりして、臨機応変にやってきました。しかし、頭の中では、常にそれぞれの学年の理想の姿を描いていました。

どの学年にもおもしろさがありますが、最も野心が抱けたのは、二年生を受けもった時でした。「三年生を抜いて、全校一になろう」と、いつも生徒たちを刺激しながら支えていました。実際に三年生を抜いたら生徒たちを手放して褒め、抜けなかったら三年生の偉大さや底力を生徒たちに語りました。結構のびのびとやっていたのが、二年生を受けもったときでしたね。

さあ、生徒か、それとも先生か……あなたの学級では、どちらが前に出てがんばるのでしょうか。（一月二十六日 記）